

とくもりおはなし会を開催!!!!

『時を超えて愛される名作
～アンデルセンとオスカー・ワイルドの作品～』

- ☆ アンデルセンの切り紙紹介
- ☆ 名作にふれるブックトーク
 - ・紙芝居「おおきなおとしもの」
 - ・エプロンシアター「はだかのおうさま」
- ☆ 創作ミニオペラ「しあわせの王子」

日 時：12月7日(土) 午前10時30分～
場 所：加治木図書館
定 員：80名程度(当日受付)
対象者：大人～小学生(低学年は保護者同伴)

加治木工業高等学校図書委員が中心になって
来ランディアでサイクルバックを作成しました!!

この活動は、県図書館大会分科会で展示紹介されました。12月のとくもりおはなし会で、参加者にプレゼントされます。
(数に限りがあります)



○新着図書を紹介

一般書

- * はなとゆめ
- * 雀蜂
- * 燃える家
- * 冬虫夏草
- * まほろ駅前狂想曲
- * 終物語 上
- * 物語ること、生きること
- * 稲盛和夫最後の戦い
- * 理系のためのExcelグラフ入門
- * 人が集まるちらしの作り方
- * 老年症候群の診察室
- * 50歳からはじめたい心の掃除
- * 文章力の決め手
- * 何のための秘密保全法か

- 沖方 丁
- 貴志 祐介
- 田中 慎弥
- 梨木 香歩
- 三浦 しをん
- 西尾 維新
- 上橋 菜穂子
- 稲盛 和夫
- 金丸 隆志
- 坂田 静香
- 大蔵 暢
- 斉藤 茂太
- 阿部 紘久
- 海渡 雄一

●インターンシップ(就業体験学習)●
霧島高校・加治木工業高校の生徒4人が、3日間のインターンシップを体験しました。

館長の指導講話のあと、本の貸出、返却等の図書館サービス業務の実際を学びました。生徒たちのレポートには、「“職場”というのを肌でかんじることが

できて本当に嬉しかった」「自分の将来の選択肢に、良い意味で影響させられるようにしたい」というイキイキとした感想がつつられていました。



アンデルセン作品紹介



* 火うちばこ



* 空とぶトランク



* えんどうまめの上のおひめさま



* はだかのおうさま



* マッチウりの女の子



鹿児島・あいら文化散歩

「感動は人生の窓を開く」

1987年(昭和62年)12月、始良市に縁のある椋鳩十が永眠してから、26年がたつ。『日本の村々に 人たちが 小さい 小さいよこびを追っかけて生きている ああ美しい 夕方の家々の 窓のあかりのようだ』は、椋鳩十が最期に遺した言葉として有名であるが、息子である久保田喬彦著「父・椋鳩十物語」の中には、他にも、死の前日に発した言葉の記録が紹介されている。

『人間は素裸になりきれん。死にぎわまで松風になりきれない。恥ずかしい』『お前は美しいキラキラしている(みと子夫人に)』『苦しいということはまだ意識があることだ 書きつけるということは、生きたいからだ』『兄弟争うな』『まだ書かなきゃ死ねん』『キラキラしたものを書きたい』『苦しみ的人生 わがままの人生』意識がときおり薄れ、うわ言と現実の世界を彷徨っているなかで、父として、夫として、また椋鳩十として、新しい思想、言葉を引き出そうとする努力が互いに交差し、天性のユーモアも交えて生々しく表現されている。苦しい病床のなかにあっても、書くことへの情熱、生きることへの執念、家族への愛情のこもった言葉は、椋鳩十が終生のモットーとしていた「感動は人生の窓を開く」をよく表したものだ。子どもたちにたくさんの感動を与えてきた椋鳩十の作品は、没後26年過ぎた今なお多くの人々に読み継がれている。

参考・引用資料「父・椋鳩十物語」久保田喬彦 著(理論社)

12月のカレンダー

12月のカレンダー						休館日
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	☆
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1月			
			1	2	3	4

☆ …とくもりおはなし会



年末年始の休館のお知らせ

12月29日(日)～1月3日(金)の間は、休館いたします。

* 1月4日(土)からは通常通り開館します。

